

夏休みプール開放監視マニュアル

宇土市立宇土東小学校 P T A 運営委員会

1 プール監視の趣旨及び心得

監視にあたる者は、プールの利用者が安全に利用できるように、プール利用者の監視及び指導等を行うとともに、事故時の発生等における救助活動を行う。

ただ単に見守るだけでなく、危機管理に対する自覚を持って監視につくようにする。

また、「監視マニュアル」には注意すべき事項を挙げているので業務従事までに熟読し、理解しておくようにする。

2 監視にあたる者の事前準備

(1) 監視の前日は、睡眠をしっかりとって体調を整えておく。

(2) 緊急時にプールに入れる服装とする。

(3) 水分補給の準備や直射日光を避ける帽子着用など熱中症対策を行い、集中して監視できるようにする。

3 監視位置と監視の要点

(1) 監視位置

① 「監視配置図」を基に、監視位置につき監視及び指導を行う。

② 保護者監視員は定位置に着き、プール全体を監視できる方向を向くようにする。

③ 専属監視員は大プールと小プールそれぞれを巡回し、監視する。

(2) 監視の要点

① 水中に顔面が没している状況の児童を特に目視し、顔を上げたことを確認する。

② 水上だけでなく水中にも目をやる。

③ 児童の顔色や表情等にも気をつける。

④ 一点に集中せず、広い範囲を監視する。

⑤ 周りの音にも気を配る。

4 児童への指導

(1) 禁止事項

① プールサイドやスタート台からの飛び込み

② プールサイドをみだりに走る

③ ふざけ（プールへ後ろから突き飛ばす、溺れるまねをするなど）

④ その他、学校のきまりで禁止している事項等

(2) 指導の仕方

- ①プールは広いため、大きな声で注意をする。
- ②注意をする時は、近くに来させて、同じ目線でわかりやすく説明して注意する。
- ③注意を故意に無視する者や何度も禁止行為を繰り返す者については、退場させるなど厳しい態度で臨む。

5 遊泳中の人数確認及び健康チェック

(1) 遊泳中

児童の遊泳行動や様子に異常がないかを注視する。

(2) 休憩中

- ①児童を退水させた後、沈んでいる児童がいないか確認する。
- ②集合して座らせ、数の確認をする。
- ③児童の顔色を見て、健康状態を確認する。

6 緊急時の対応

「事故対応マニュアル」(別紙-4) にそって、敏速にそして冷静沈着にふるまい、自信と勇気を持って救助を行う。

(1) 保護者監視員の役割

① 119 番通報

- 「119番」を押して通話ボタンを押す。
- つながったら、「救急です。」
- 「宇土東小学校、宇土市築籠町46番地のプールです。」
- 「私の名前はプール監視員の〇〇です。」

.....

※あわてず、要救護者の近くで、指示されたとおりに正確に伝える。

※絶対電話を切らない。

③ 児童誘導

- 要救護者から離れた広い場所に整列させる。
- 緊急時であることを簡単に説明し、シャワー・更衣をさせる。
- 更衣をさせた後、プール外にもう一度整列させ、プールカードで再確認する。
- 児童の様子を観察し必要な指導を行い、帰宅が可能な児童は家が近い児童とともに帰宅させる。すぐに帰宅が不可能な児童には学校校舎内に一時待機させる。
- ※学校の先生と連携し、安全に帰宅できるようにする。

④学校通報・PTA 運営委員会通報・通報救急車誘導

- 学校へ通報または職員室に行き、事故の状況を伝え応援を要請する。
- PTA 運営委員会へ事故の発生及び状況を伝え応援を要請する。
- 伝え終わったら、救急車通用口を開け、救急車が着いたら場所を伝える。
※緊急車両以外、絶対入らないようにさせる。

⑤その他

- 専属監視員と不必要な会話をしない。(監視に集中させるため)
- プール外に不審者がいないか目を配り、発見した場合は、専属監視員に報告する。

(3) 専属監視員の役割

- ①要救護児童をプールから引き上げ、救護に全力を尽くす。
- ②胸骨圧迫(心臓マッサージ)が必要な場合は、最優先で行う。
- ③AED操作
 - プールにおいてあるAEDを要救護者まで持ってくる。
 - 児童の体を拭き、AEDの電源を入れる。
 - AEDの音声ガイドに沿って装着する。
※あわてず確実にパッドを装着する。
- ④救急隊員が到着し交代の指示があるまで救護処置を続ける。
※あわてず、自信を持って、冷静沈着に、自分が助けるという自覚を持って救護に当たる。

(4) 学校の役割

事故の連絡を受けた時、職員で連携し対応にあたる。